

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課
 担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道1号袋井バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局	
起終点	自：静岡県袋井市国本 至：静岡県磐田市岩井	延長	5.1 km			
事業概要 一般国道1号袋井バイパスは、静岡県袋井市国本から静岡県磐田市岩井に至る延長5.1 kmのバイパスであり、交通渋滞の緩和や交通安全の確保および物流効率化の支援を目的に計画された道路です。 平成24年度までに袋井市堀越から磐田市岩井に至る延長2.6 kmが開通されており、磐田市および袋井市域の渋滞緩和に寄与しています。 現在、工事を推進している国本IC～堀越IC間は、主要渋滞箇所指定されていますが、引き続き4車線化整備をすることで、約2～8分の時間短縮等の効果を見込んでいます。						
H21年度事業化	S54年度都市計画決定 (H一年度変更)	H一年度用地着手	H21年度工事着手			
全体事業費	140億円	事業進捗率	63%	供用済延長	2.6 km	
計画交通量	52,500台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 4.7 (残事業) 6.7	総費用 (残事業)/ (事業全体) 50/161 億円 (事業費：40/136億円 維持管理費：10/24億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 335/749 億円 (走行時間短縮便益：302/694億円 走行経費減少便益：21/38億円 交通事故減少便益：13/17億円)	基準年 平成25年		
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=4.2～5.1(交通量 ±10%) 事業費：B/C=4.5～4.8(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=4.5～4.7(事業期間±20%) 【残事業】交通量：B/C=6.0～7.4(交通量 ±10%) 事業費：B/C=6.2～7.3(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=6.5～6.7(事業期間±20%)						
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・現道等における混雑時旅行速度が20 km未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 ・現道等に、当該路線の整備により、利便性の向上が期待できるバス路線（遠鉄バス）が存在する。 ②国土・地域ネットワークの構築 ・当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する。 ・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる。 ③個性ある地域の形成 ・主要な観光地（エコパスタジアム）へのアクセス向上が期待される。 ④災害への備え ・第一次緊急輸送道路に位置づけられている。 ⑤地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。 ⑥生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。						
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等 景気回復と渋滞解消、交通環境の改善のためには、国道1号のバイパス全線4車線化の早期実現はきわめて重要であり、経済と地域の活性化にも大きな効果をもたらします。国本IC～堀越IC間が平成27年度の供用が確実になされるよう引き続き事業推進と必要な予算措置をお願いしたい。（島田・磐田間バイパス						

建設促進期成同盟会、磐田市)

知事の意見

本事業は、主要渋滞箇所として指定されている暫定2車線区間の立体部を4車線化することで交通渋滞を緩和するとともに、渋滞に起因する追突事故等の発生件数についても、隣接する磐田バイパスと同程度まで減少することが期待されます。また、所要時間の短縮や定時性が向上することで、本県の製造品出荷額の約5割を占める県西部地域の物流の効率化にも大きく貢献する、大変重要な事業です。今後も、コスト削減の徹底とともに、効果が十分に発現できるよう事業の推進をお願いします。また、各年度の実施にあたっては、引き続き県と十分な調整をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

・「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・朝ピーク時において上下線ともに渋滞が発生しており、国本IC～堀越IC間は平成25年1月に主要渋滞箇所（1区間（4箇所））に指定。
- ・平成25年3月に堀越IC～三ヶ野IC間の4車線化が完了し、速度の向上が確認できたが、依然として国本IC付近から堀越IC付近までの間で、上下線ともに速度低下が発生。
- ・速度低下の発生しやすいランプ部付近での事故が多く、渋滞に起因すると考えられる追突事故が約9割を占める。
- ・静岡県西部地域は、全国第3位を誇る静岡県の製造品出荷額の約5割を占める地域であり、納入時刻指定輸送を行っている輸送用機械産業をはじめ、多くの企業が立地。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は63%。
- ・国本IC～堀越IC間は、平成27年度の4車線開通に向けて鋭意工事を推進。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・国本IC～堀越IC（L=2.5km）は、平成27年度の開通を予定。

施設の構造や工法の変更等

・技術の進展に伴う新工法の採用等によるコスト削減に努めながら事業を推進する。

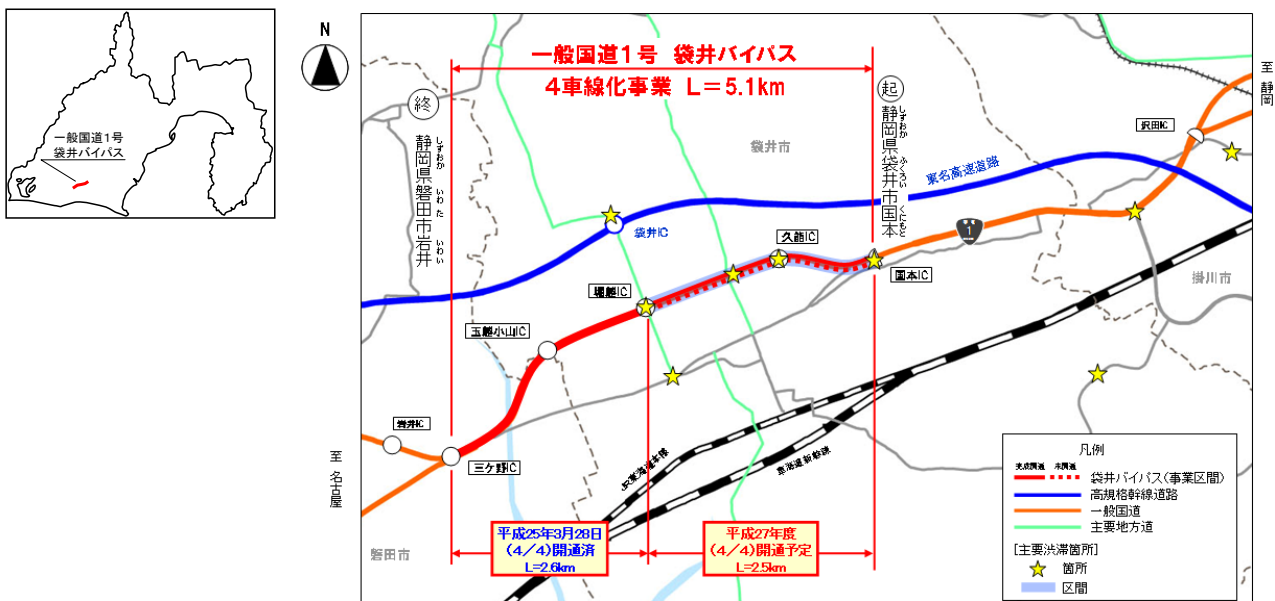
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。